

第18回 ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館展示**「愛される建築を目指してー建築を生き物として捉える」****～大西麻貴氏がキュレーターを務める注目の展示が5月20日から公開～**

国際交流基金（JF）は、2023年5月20日から11月26日にかけて開催される「第18回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展」において、日本館展示を主催します。

本年の日本館では、建築家の大西麻貴がキュレーター、そして建築設計事務所、o+hの共同代表を務める百田有希が副キュレーターを務めます。「愛される建築を目指して」と題し、建築家・吉阪隆正が手がけた日本館そのものにスポットを当てた展覧会です。

吉阪隆正は、今和次郎や近代建築の巨匠ル・コルビュジエに師事し、戦後復興期から1980年まで活躍しました。吉阪の代表作である日本館は1956年に竣工され、ヴェネチアの地で半世紀以上にわたり日本の美術・建築を紹介しています。本展では、建築家のみならず、テキスタイルデザイナー、窯業家、デザイナー、編集者、金工、アニメーターといった専門性の異なるチームメンバーが、この日本館建築そのものを展示物と捉え、大西、百田の両氏が長年にわたり取り組んできたテーマである「愛される建築」を実践します。

ファサードにかかるテントの屋根、開口部に吊るされたモビール、バーのような憩いの場として人々が交差するピロティ、日本館の特徴を語る上で欠かせない構造壁に投影されたアニメーション、さらに日本館のコンセプトや造形への回答として制作され、室内に展示される模型、什器、再編集した書籍等、さまざまな作り手が日本館と向き合い、構想した展示物を通して、来場者が「愛される建築」について考えられる場を作ります。

一般公開に先立ち、5月18日にオープングレセプション、5月18日と19日には内覧会を日本館で開催します。5月20日には、キュレーターによるガイドツアーやトークイベントも実施します。会期中、関係者によるトークイベントやワークショップ等を通じて、「生きた場」として日本館を育て続けることを目指します。

記

1. 内覧会・オープングレセプション**内覧会**

日程：2023年5月18日（木）、5月19日（金）

参加対象：関係者及び報道関係者向け

※報道関係者の方は、下記ヴェネチア・ビエンナーレ公式サイトで事前のプレス登録をお願いします。

※登録締切は、現地時間2023年5月6日です。

参加登録・詳細・ヴェネチア・ビエンナーレ公式プレスキット等：

<https://www.labiennale.org/en/architecture/2023/accreditation>**オープングレセプション**

日時：2023年5月18日（木）現地時間15:45開始

会場：日本館ピロティ

※申込不要でご参加いただけます。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

2. 関連イベント情報

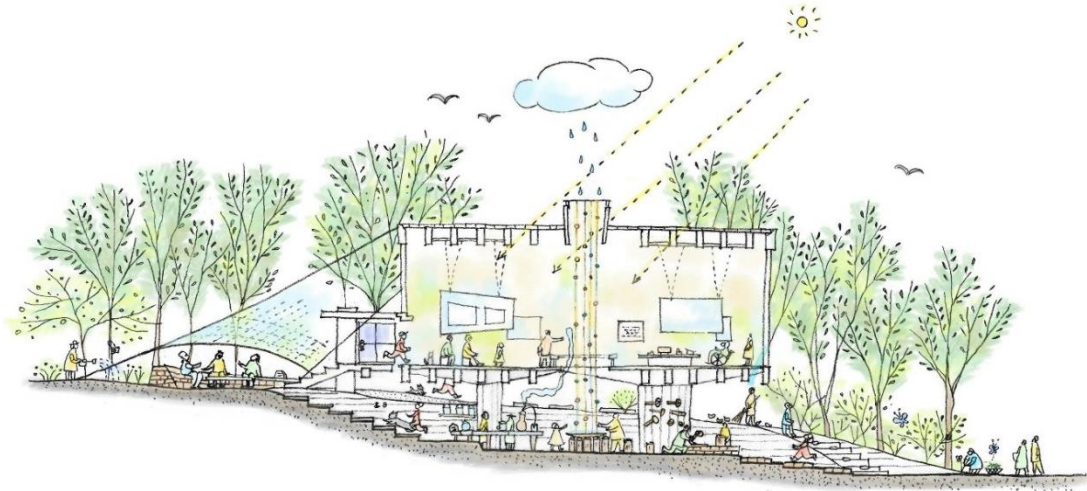
キュレーションチーム・出展者によるガイドツアー及びトークイベント：

ガイドツアー： 2023年5月20日（土）13:00 開始（英語）

トークイベント：2023年5月20日（土）14:00～16:00（日本語及び英語逐次通訳）

テーマ「愛される建築を巡る対話」

会場：日本館（ビエンナーレ会場のジャルディーニ地区内）Padiglione Giappone



展示コンセプトドローイング 2023 © o+h

3. キュレーターステイトメント

愛される建築を目指してー建築を生き物として捉える

2023年初夏、日本館の竣工から67年が経ちました。日本館は、たくさんの人を受け入れながら、今もこの場所に立っています。今回、私たちは「愛される建築」をテーマに、吉阪隆正さんにより設計された日本館そのものに向き合うことから展覧会を育ててきました。

「愛される建築」を目指す私たちの活動は、その場所を取り巻く風景や営み、刻まれた記憶や物語も含めて「建築」と捉えることで、「建築」がもつ意味や可能性を広げていく試みです。そのために私たちは、建築を“生き物”と捉えることから始めたいと思います。



キュレーター 大西麻貴、副キュレーター 百田有希

「ものをつくるとは、そのものに生命を移すことだ」。これは吉阪隆正さんが残した言葉です。命を宿す自立した存在として建築と向き合うと、その価値を機能や性能で測るのではなく、欠点や未完成な部分も含めて愛しみ、育てていくことができます。そのように建築の個性をおおらかに受け止める姿勢は、人間や動植物を含めた私たちそれぞれが、互いの違いを認め、尊ぶことのできる寛容な世界へとつながっていくのではないのでしょうか。

もし日本館が“生き物”だとしたら、私たちはこの場所をどのようなまなざしで見つめ直すことができるでしょう。会場内に点在する日本館へのさまざまな応答を手がかりに、ここを訪れた人々とともに「愛される建築とはなにか」を考え、私たちと建築との関係を問い直してみたいと思います。

キュレーター 大西麻貴

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

4. 第18回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館

展示タイトル：愛される建築を目指して—建築を生き物として捉える

(英題：Architecture, a place to be loved—when architecture is seen as a living creature)

会期：2023年5月20日(土)～11月26日(日)

会場：日本館(ビエンナーレ会場ジャルディーニ地区内)

Padiglione Giappone, Giardini della Biennale | Castello 1260, 30122 Venezia

主催/コミッショナー：国際交流基金

キュレーションチーム：大西 麻貴(建築家、o+h 共同代表)、百田 有希(建築家、o+h 共同代表)、原田 祐馬(デザイナー、UMA/design farm 代表)、多田 智美(編集者、MUESUM 代表)

出展者：dot architects(建築家 | 家成 俊勝、土井 亘、池田 藍、宮地 敬子)、森山 茜(テキスタイルデザイナー・アーティスト)、水野 太史(建築家、窯業家、水野製陶園ラボ代表)

展示デザイン：o+h(榮家 志保、古澤 周、伊郷 光太郎、前本 哲志)

編集：MUESUM(永江 大、羽生 千晶)

デザイン：UMA/design farm(高橋 めぐみ、津田 祐果)

協力者：André Raimundo、橋本 亜沙美、Atelier Tuareg(岡崎 裕司)、Good Job!センター香芝、Julia Li、笠原細巾織物(笠原 直樹、伊代田 秀樹)、Lighter but Heavier(片山 浩)、水野製陶園(水野 吉興)、水野製陶園ラボ(今井 一貴)、moogabooga(高野 真、小田 文子)、大鷲テープ工場(大鷲 義育)、吉行良平と仕事(吉行 良平)、進弘産業株式会社(伊藤 誠宣、横山 厚、松田 康宏、加藤 貴志、Nguyen Thi Kim Tu、Nguyen Thi Yen Nhi)、SUPER-FACTORY + HIGURE 17-15 cas(佐野 誠、有元 利彦、田中 信至、木村 泰平)、太陽工業株式会社(池田 憲彦、平郡 竜志)、たんぼぼの家、桂 瑛、横浜国立大学大学院/建築都市スクール"Y-GSA"(長柄芳紀、武部 大夢、照井 甲人、上田 望海、松原 周、遠藤 颯大、神田 柚花)、井波 吉太郎、平岩 良之、多木 陽介、高野 ユリカ

特別助成：公益財団法人 石橋財団

協賛：株式会社マザーハウス、三協立山株式会社、伊東豊雄建築設計事務所、カリモク家具株式会社、名古屋モザイク工業株式会社、S&R Evermay / Sachiko Kuno Philanthropic Endowment、株式会社シェルター、鹿島建設株式会社、株式会社大西熱学、田島ルーフィング株式会社、株式会社竹中工務店、Amame Associate Japan 株式会社、大光電機株式会社、株式会社フエニクシー、太平ビルサービス株式会社、石川建設産業株式会社、合同会社ヴォーチェ、横浜国立大学、横浜国立大学大学院/建築都市スクール"Y-GSA"

協力：太陽工業株式会社

5. コミッショナーについて

第18回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館展示の主催者/コミッショナーである「独立行政法人国際交流基金(JF)」は、世界の全地域において、総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。1972年に外務省所管の特殊法人として設立され、2003年10月1日に独立行政法人となりました。海外に24か国・25の拠点を持ち、「日本の友人をふやし、世界との絆をはぐくむ」をミッションに掲げ、世界の人々と日本人の間で相互の理解を深めるため、さまざまな企画や情報提供を通じて人と人との交流をつくりだしています。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部(担当：熊倉、原田)

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

6. 第18回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館 広報用画像

画像を希望される方は、広報担当の熊倉・原田 press@jpf.go.jp までご連絡ください。

【ご使用時の注意点とお願い】

- ・画像のご使用は本展の広報目的のみに限ります。
- ・画像の掲載に際しては、作家名、作品名、作品情報及び所定のクレジットを必ず記載してください。
- ・画像の改変(トリミング、部分使用、文字のせ含む)、画像の二次使用はご遠慮ください。
- ・事実関係確認のため、出版前に記事校正を広報担当者までお送りください。
- ・掲載誌または掲載記事を広報担当者までお送りください。



展示コンセプトドローイング 2023 © o+h



キュレーター 大西麻貴、副キュレーター 百田有希



常滑の海岸で等辺を収集する様子
2023 © 水野太史 写真：原田祐馬



光と風を可視化するテキスタイルのスタディ
2022 © 森山茜



「つくること」と「使うこと」が同時に起こる場、馬木キャンブ
© dot architects 写真：原田祐馬



吉阪隆正設計の日本館 © 写真：原田祐馬

以上

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp